

氏名	鈴木達志
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第66号
学位授与の日付	昭和36年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系歯科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	歯槽膿漏手術創の血管新生に関する実験的研究
論文審査委員	教授 渡辺義男 教授 妹尾左知丸 教授 武田俊光

#### 学位論文内容要旨

現在まで歯槽膿漏症手術創の治癒経過に伴う血管新生に関する研究は極めて少く、組織学的にもその治癒機転について不明の点が多い。私は今川のグッタバルカ注入法を用いて、犬の辺縁部歯周組織の微細血管分布の検索を予備実験として行った上で同法により犬の歯肉切除手術創、歯肉弁剥離手術創の血管新生に関する実験的研究を行った。その結果歯肉切除術においては、術後1日より血管芽が認められ、術後7日で創面は肉芽組織で覆われ、新生毛細管係蹄の増殖が著しい。術後14日で上皮が創面を覆うが、毛細管係蹄の動、静脈への発達と同時に一部毛細管の消失を認め、新生歯肉は歯肉血管によって栄養される様になる。術後28日で組織学的に軟組織は正常となるが、歯間乳頭部の血管分布は正常に復していなかった。歯肉弁剥離手術創の血管新生は歯肉切除創の場合と殆んど同様であるが、術後14日で歯肉の歯根面への再附着がおこり、この時期における新生血管の発達、再構成は結合織のセメント質への附着と密接な関係のある事が推察された。

以上の結果術後処置として Surgical Pack を用いる事は、肉芽組織の過剰増殖を抑制するのに意義があり、歯肉マッサージは歯周組織血管分布機構の修復を促進せしめるものと考えられた。

備考 岡山医学会雑誌 第74巻1,2,3合併号(昭和37年3月末発行)に掲載予定

## 論文審査の結果の要旨

鈴木達志提出の「歯槽膿漏症手術創の血管新生に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

今川のグッタベルカ注入法を用いて、犬の歯槽膿漏症手術創の血管新生に関する実験的研究を行ったところ、血管の新生は血管芽の発生に始まり、毛細管係蹄の形で伸展、増殖し、術後1週間で最も緻密な毛細管網を形成するにいたる。以後毛細管係蹄の動、静脈への発達と同時に一部毛細管の消失がおこり、血管分布の再構成が行われる。

歯肉切除手術創治療過程においては、歯根膜・歯槽骨血管が重要な役割を演じ、最初の間、新生歯肉はこれ等の血管より血液の供給を受けているが、歯肉血管と連絡を生じてからは歯肉血管によって栄養される。

歯肉弁剥離手術創の血管新生は歯肉切除創の場合と殆んど同様であるが、歯肉附着部に存在する毛細管係蹄がセメント質への歯肉結合織の有機的な結合に関係があるように考えられた。

以上の結果から、歯槽膿漏症手術に対する後療法の必要性を解明することが出来た。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。